

交流文化学科		教授	玉井 昇	大学院の授業担当 無
教育活動				
教育実践上の主な業績		年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)				
1	導入授業としてのアイス・ブレイキング・ワークの活用	2006年4月より現在	専門科目や語学科目を問わず、4年制および短期大学における各初回授業で、受講生の参加意欲を高めるために随時実施。一例として、専門科目では「部屋の四隅」、語学では「非言語グルーピング」などのアイス・ブレイキングを実施し、受講生同士の緊張感をほぐすとともに、興味や関心、既習の知識などを把握。学生による授業評価アンケートを見ても、高い効果を上げている。	
2	アクティブ・ラーニングとしての参加体験型学習・問題解決型学習の活用	2006年4月より現在	主に国際系の専門科目において、貧困や人権、国際協力など各テーマの導入授業として実施。開発教育協会(DEAR)などによって開発された関連教材を活用して、主題に関連するワークを導入し、当事者の立場を疑似体験するなどして自発的な問題意識を喚起。学生の自発的・積極的授業参加と問題解決能力の向上だけでなく、その後の講義の事前学習としてもきわめて高い効果が得られている。学生による授業評価アンケートからも、受講意欲の向上が見て取れる。	
3	英文情報検索システムを利用した授業外における学習促進のための取り組み	2002年4月より現在	インターネットを利用した英文情報検索の一環として、語学系科目に関わらず、これまで担当した多くの専門科目で実践。グローバル・イシューに関しては、国連文書の検索・閲覧ができる‘ODS’など、オセアニア地域研究に関してはABCやRNZ Newsなどの英文情報検索閲覧システムを活用。それらサイトの利用した予習・復習・課題作成等、授業外における学習促進のための取り組みを実践している。	
4	講義内容のweb上での公開、シラバス作成の工夫、講義資料のweb上での配信	2002年4月より現在	これまで担当してきた大学・短大の全担当科目の講義内容(シラバス)を各大学のHP上で広く学内外に公開してきた。さらに、各授業の初回時に、シラバスの簡略版を作成して配布し、ガイダンス内で確認している。また、「授業の到達目標」を具体化し、評価の基準と明確にリンクさせることで、学生の目指すラーニング・アウトカムの可視化を図っている。また、学内専用の情報サイトなどが利用可能な場合は、プレ講義情報の提供、講義配布資料の閲覧や提供などにも努めてきた。	
5	学生による授業評価結果とフィードバック	2002年4月より現在	これまで各大学で実施された受講生による全アンケートをティーチングポートフォリオの一環としてファインリングし、適宜見直すようにしている。また、自由記述に対して教員によるフィードバックやコメントの公開が可能な大学ではそのシステムを利用して回答し、そうでない場合は授業内で回答するように努めている。	

交流文化学科		教授	玉井 昇	大学院の授業担当 無
2 作成した教科書、教材、参考書				
1	国際理解教育実践モデル授業案DVD教材「地球がもし30人の村だったら?～大分編」(文部科学省採択戦略的の大学連携支援事業の成果教育教材)	2010年10月	文部科学省採択戦略的の大学連携支援事業の「大分県における地域連携研究・留学生支援・教育連携を柱とする地方における高度人材養成拠点の構築」に基づき、国際理解教育実践モデルの授業。実施団体である大学コンソーシアムおおいが大分県内7つの大学機関の関連授業の中からモデルとなる実践授業を選定。担当授業の「国際理解教育論」も選定され、撮影・編集された。同教材は大分県内外の大学および関連機関に配布、利用。	
2	授業講義ノート、プレゼンテーション資料やレジュメ、ワーク・シートなどの補助教材(プリント冊子)	2002年5月より担当科目ごとに作成、更新、現在に至る	受講者数の多い講義では、流れをつかみやすく、理解の一助となるような講義ノートを作成。また、前掲の参加型学習の実践が可能な場合にも、「何を目的としているのか」、「何をしたら良いのか」が明確に伝わるようにオリジナルのワーク・シートを作成。その他、より現実的かつ具体的な事例の中から、問題を認識するために、関連事件について言及した新聞記事や写真などの副教材も、著作権に留意しつつ積極的に活用している。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
1	初年次導入教育科目「ライフデザイン演習」授業実践事例報告	2018年3月20日	平成30年度「ライフデザイン演習」担当者説明会・報告会にて、初年次導入教育科目「ライフデザイン演習」の授業実践について報告。とくに、「スタディスキルズ」=大学で学修していく力、「アカデミックスキルズ」=専門的に思考する力、および「キャリアデザイン」の3部構成として立てた授業の目標と対応した各回の授業内容について報告した。(帝京大学八王子キャンパスソラティオスクエアS517教室)	
2	「短期大学における『国際協力』の教育と実践—『国際ボランティア論』を中心に—」	2015年12月	大分県立芸術文化短期大学国際文化学科(2013年より国際総合学科に改組)にて担当した「国際ボランティア論」の教育的取り組みについて、大分県JICA派遣専門家連絡会から講演依頼を受け、2015年10月に大分大学医学部で行われた同連絡会総会にて講演を行った。とくに、大分県内で活動するNGOほか諸団体と連携した取り組みや、おおい国際協力啓発月間での実践的活動について報告した。	
3	「国際理解教育の実践—ワークショップから考える別府の多文化共生社会:在住外国籍児童・生徒に対する教育を考える」	2010年8月	JICA九州大分デスクおよび別府市教育委員会からの依頼により、平成21年度別府市小中学校国際理解教育担当者研修会にて同講演を担当した。(場所:別府市中央公民館)	
4	大分市小中学校教員向け国際理解教育の手法と実践に関する講演	2009年8月	大分市教育委員会の依頼により、平成21年度大分市立小中学校教職員10年経験者研修1「講義:異文化との主体的な共生のために」、研修2「体験してみよう!参加・体験型の国際理解教育」を担当した。(場所:大分市金池会館1階中会議室)	
4 その他教育活動上特記すべき事項				
1	日本キャリアカウンセリング研究会「はたかち(働く価値)カード」を利用した学生のキャリア形成支援セミナー」講座修了	2014年6月8日	受講地:文化総合センター大和田(東京都渋谷区)。「はたかち」カードとは、大学生等が職業選択をする上での自分の軸=「内的キャリア」を探索することを目的としたカードソートツール。このカードを効果的に使うための講座。また、キャリア開発をどう捉えるのか、語り合いのプロセスを進める上での留意点なども学習。講座を修了し、認定ユーザーとして登録された。	
2	中央職業能力開発協会「グループによる語り合いを通じた学生のキャリア形成支援セミナー」講座修了	2012年9月12-13日	受講地:中央職業能力開発協会事務所(東京都新宿区)。大学生などに対するキャリア形成支援を目的に、グループでのさまざまなやりとりを体感しながら、コミュニケーションを通じた自己理解と相互理解のあり方を基本から実践まで体系的に習得。グループワークに参加する学生及び若年者の気持ちや考えも理解できるように、実際にグループワークを体験し、ファシリテーターの役割など運営に必要なことを習得した。	

交流文化学科		教授	玉井 昇	大学院の授業担当 無
3	英語科教授法資格TESOLのコース修了と英語指導者資格TKT module 2 並びにmodule 3 bond3 取得	2011年8月～10月	クィーンズランド大学(オーストラリア)にて、第二言語としての英語学習者に英語を教えるための教授法TESOL-Bコースを受講し、所定の単位を取得してコースを修了。また、ケンブリッジ大学英語検定機構(Cambridge English Language Assessment)実施の英語教授知能認定テストTKT(Teaching Knowledge Tests)のモジュール2と3でbond 3を取得。	

交流文化学科	教授	玉井 昇	大学院の授業担当 無
学会等および社会における主な活動(学外の委員、役職等)			
年月日	活動内容		
2014年4月～2016年3月	第3次大分市国際化推進計画策定委員		
2016年8月～2018年7月	日本国際教育学会特任理事／事務局長		
2018年6月～現在	日本政治法律学会理事／幹事		
その他			